青梅市文化財ニュース

第１９２号

平成１５年１０月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室（青梅市駒木町 1-684　TEL0428-23-6859）

寺院の宗派

奈良時代から江戸時代までの宗派をひとまとめにして『十三宗五十六派』と言いましたが、青梅市内には明治時代以前から続く寺院が、65 か寺あって、それらは 5 つの『宗』と 56 の『派』に分かれています。宗派はお釈迦様の教えの、どの時代の、どの部分を取るか、また、複数の弟子による流れの違いなどによって分かれて現在のように多数になりました。江戸時代の川柳に、「宗論はどちらが負けても釈迦の恥じ」とあるように、そのもとはお釈迦様の教えに戻るわけであり、優れているとか、正しいということより、山の頂上に登るのに、いろいろな登山道があるように登り口によって、緩やかだったり、険しかったり、景色が違ったりしても、登りつめた頂上は一つであるのと似ています。宗派のどの道を進んでもお釈迦様に通じているものと思います。

『十三宗』とはどのようなものなのでしょうか。まず、奈良時代から続く『宗』が 3 つあります。『法相宗』『華厳宗』『律宗』です。あまり聞かない宗派名ですが、その宗派に属する寺院の名を聞くと、よく知られているのですぐにわかります。法相宗には薬師寺・興福寺・法隆寺(今は聖徳宗といいますが、もとは法相宗です)などがあり、華厳宗は東大寺で、律宗は唐招提寺が本山です。それぞれが奈良を代表する寺院です。ただこれらの寺院は宗派というより学派という意味あいの方が強く、仏教を学問的に受容し、修行していく寺院だといわれます。次の平安時代に『天台宗』と『真言宗』が生まれます。共に宗を興した最澄と空海という巨匠が中国から持ち帰った密教を日本に伝え、始まりました。山の上に寺院を構えたので、比叡山延暦寺、高野山金剛峰寺のように、奈良時代の寺院には無かった『山号』が付きました。よって、それ以来、平地にある寺院でも山号を付け始めたといわれています。青梅市内では、今寺の報恩寺が天台宗で、真言宗は天ヶ瀬町の金剛寺や塩船観音寺、成木の安楽寺など 21 か寺があります。さらに時代が下がり、鎌倉時代になると比叡山で学び修行したお坊さんが街中に下りて民衆や武士に教えを広め出しました。「南無阿弥陀仏」と唱え極楽浄土への往生を念ずる宗派が法然が始めた『浄土宗』で、その弟子である親鸞が『浄土真宗』を開きました。浄土宗は京都の知恩院が総本山で、大本山として東京の芝の増上寺や鎌倉の光明寺などがあります。浄土真宗は京都の東本願寺と

西本願寺がそれぞれ本山です。同じように「南無阿弥陀仏」を唱える宗派に『融通念仏宗』と『時宗』があります。畿内(京都府、大阪府、奈良県など)を中心に良忍を開祖に始まった『融通念仏宗』は青梅では馴染みがありませんが、一遍を開祖に藤沢の清浄光寺(遊行寺)を総本山とする時宗は市内に 2 か寺あります。勝沼の乗願寺と今井の正福寺です。禅宗に『臨済宗』『曹洞宗』『黄檗宗』の 3 宗があります。坐禅や日常の作務という労働や托鉢を主に修行とする宗派で、市内の臨済宗では鎌倉の建長寺を本山にする長渕の玉泉寺や住江町の延命寺など 9 か寺。曹洞宗は根ヶ布の天寧寺や二俣尾の海禅寺など 32 か寺があって市内にある寺院 65 か寺の寺院のうち、その半数近くを占めています。また、同じ鎌倉時代に「南無妙法蓮華経」の題目を唱え、法華経の教えを基盤に日蓮が開宗した『日蓮宗』は山梨県の身延山久遠寺を総本山としています。江戸時代初期に中国から隠元が来朝して、京都の宇治に万福寺を開いた『黄檗宗』は 13 宗の中では最も新しい宗派です。

奈良時代に開かれた 3 宗、平安時代の 2 宗、鎌倉時代の 7 宗、江戸時代の 1 宗を合わせて『13 宗』、それに真言宗の 11 派、浄土宗の 10 派、浄土真宗の 10 派、臨済宗の 14 派、日蓮宗の 11 派を合わせての『56 派』を総称して、『十三宗五十六派』と呼んでいましたが、今はさらに枝葉が分かれているようです。

（文責　棚橋 正道）